

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103136
法人名	医療法人 創実会
事業所名	グループホーム はなの家
所在地	松山市 六軒家町 3 - 1 9
自己評価作成日	平成23年 10月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>母体病院が脳神経外科、泌尿器科と二か所あり医療体制が整っている。</p> <p>2ヶ月に一度運営推進会議を行っており、地域住民の方々・消防等多くの方との交流が増えたことによって関係性が深まり、地域でのグループホームとしての役割が持てるようになっている。</p> <p>毎月各利用者の担当職員が日々の生活の様子を手紙に記入し、請求書と一緒に同封しており、よりご家族に様子をお伝えすることが出来ている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>校区内の小学生の「ふれあいクラブ」の児童が、継続して月2回、来てくれており、利用者と一緒に歌を歌ったり、楽器の演奏をしたり、折り紙やゲームをして交流されている。「ふれあいクラブ」の児童の中には利用者のお孫さんもいて、利用者はさらに楽しみになっている。中学生の福祉の授業での訪問時には、利用者で交流されたり、車椅子を押す体験等をされた。母体病院の受診時、知り合いの方にお会いした際には、職員からも「ホームにも立ち寄って下さいね」と声をかけておられる。地域のいきいきサロンに出かけた際には、利用者は地域の方達とゲーム等をして楽しまれた。</p> <p>以前、住んでいたところに「帰りたい」と言われる利用者には、ご家族と相談して、職員同行で帰っていただいたこともある。職場の同僚だった方が会いに来てくれたり、県外に住むご家族が、居室に泊まって帰られることもある。入居前からファミリーサポートセンターを利用されている利用者がおられ、調査訪問時には、ご本人が依頼した買い物をお届けに来られていた。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームはなの家

(ユニット名) 梅 2F

記入者(管理者)
氏名 二宮 啓太

評価完了日 平成 23年 10月 11日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 毎日の申し送り時、運営理念とユニットの理念を復唱し実践出来るように意識付けしている。	
			(外部評価) 事業所理念とともに、「地域の中で利用者が過ごしていくこと」という事業所の思いを踏まえて、各ユニットごとに理念を作成され、地域の中で利用者を支えていくことを目指して取り組んでおられる。理念は、居間に掲示して、毎朝の申し送りの時に復唱し、共有されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議で地域の方々から交流を深め、地域の行事に参加させて頂いたり、はなの家の行事に招いたりしている。	
			(外部評価) 校区内の小学生の「ふれあいクラブ」の児童が、継続して月2回、来てくれており、利用者と一緒に歌を歌ったり、楽器の演奏をしたり、折り紙やゲームをして交流されている。「ふれあいクラブ」の児童の中には利用者のお孫さんもいて、利用者はさらに楽しみになっている。中学生の福祉の授業での訪問時には、利用者で交流されたり、車椅子を押す体験等がされた。母体病院の受診時、知り合いの方にお会いした際には、職員からも「ホームにも立ち寄ってくださいね」と声をかけておられる。地域のいきいきサロンに出かけた際には、利用者は地域の方達とゲーム等をして楽しまれた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) はな祭り等の行事の際、ボランティアや地域住民の方々を招き、利用者と一緒に過ごして頂いたり、職員が説明しており理解して頂けるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議では、行事報告を行ったり利用者の日々の暮らしぶりを報告したり、議題を基に話し合いをおこなったりしてサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>会議は、法人内の地域密着型特定施設入居者生活介護事業所(介護付き有料老人ホーム)と合同で行っておられ、会議の案内や議事録は、地域のメンバーのお宅を訪ねて手渡しされている。会議時、事業所からは、行事や活動を報告してメンバーの方達と意見交換したり、防災訓練を実施された。さらに、町内会長等、地域の方からは、町内の夏祭りや自主防災訓練等、地域行事の情報を教えてもらっている。管理者は、「会議を重ねることで地域との関わりが出来てきた」と感じておられる。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議に参加して頂いたり、研修等で協力して頂いている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時、市の担当者の方には、研修の情報を教えてもらったり、防災訓練へのアドバイスをいただいた。インフルエンザの流行の時期には、注意することを教えていただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>基本 身体拘束は行っていないが、どうしても必要な方にはご家族に状況を説明し同意書を頂き対応している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、利用者は職員といっしょに散歩や買い物に出かけていく様子がみられた。ユニット入り口のドアの開閉時には、音が鳴り職員が気付くようになっている。「帰りたい」と言われる利用者には、職員がゆっくりお話を聞く等して対応されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日頃より利用者に対しての言葉遣いや声掛けには注意を払い防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ミーティング等で繰り返し学ぶ機会を持ち、より理解し活用出来るよう努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前にご本人・ご家族に十分な説明や施設内の見学をして頂き、理解・納得して頂けるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を行い意見交換を行ったり、面会時に御家族の要望等を聞き、相談しながら行っており職員は理解した上で日々の支援に反映させている。 (外部評価) ご家族へ毎月送付する書類とともに、利用者個々の担当職員が、利用者の日頃の様子や体調、行事に参加した際の様子等を書いた手紙を同封されている。ご家族は、「事業所での様子がよく分かる」と、喜ばれているようだ。行事時の写真や運営推進会議の内容等を載せた「はな便り」は、年3回発行されており、ご家族の来訪時に、手渡ししてエピソードを伝えておられる。3月の食事会や10月のいも炊き時には、20名ほどのご家族が参加されて、ご家族同士や職員とも親睦を深めておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			管理者に日頃の業務の中で話し合ったりする場がある。	
			(外部評価)	
			月に1回、全職員でミーティングを行っておられる。ミーティングでは外部研修の報告や日頃のケア・業務について意見を出し合うようにすすめておられるが、職員からの意見や提案はあまり出ることがないようだ。	管理者は、各ユニットのリーダーが中心になってミーティングを行う方が意見が出やすいのではないかと考えておられる。職員が活発に意見や提案を出せるような取り組みを工夫して、現場職員の意見や提案を運営に反映していかれてほしい。職員の意欲向上にむけた取り組みを工夫していかれてほしい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			代表者と職員が直接話す機会はすくないが、管理者が代表者に勤務体制や職員の状況等を伝えるように配慮してくれている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修に参加しやすいよう費用の補助や勤務調整を行っており、研修後には他の職員にも研修内容を報告し皆で共有出来る体制が整っている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			地域のいきいきサロンに参加したり、有料老人ホームと相互訪問を行ったりサービスの質の向上させるよう取り組んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前には、ご本人に見学して頂き不安や要望がある場合には説明をして、ご本人とのよりよい関係作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族より不安なことや要望等を聞き職員は理解した上で御本人の支援を行いよりよい関係作りに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事業所の利便性を活かしながら柔軟な対応と支援が出来るよう見極めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の暮らしの中で利用者より教えて頂いたり、意見を頂いたりし、共に生活する上で大切な関係を築くことが出来るよう取り組んでいる。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人の日頃の様子を毎月手紙にして送ったり、面会時に直接様子を報告している。またご家族からの希望や要望も反映させ、共に支えていけるような関係作りを築いている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) デイケアを利用されている御家族に会いに行ったり、面会がある時には御本人とお話出来るように支援している。	
			(外部評価) 入居前に法人内のデイサービスを利用されていた利用者の方は、時々、デイサービスに出かけて交流を続けておられる。以前、住んでいたところに「帰りたい」と言われる利用者には、ご家族と相談して、職員同行で帰ってみられたこともある。職場の同僚だった方が会いに来てくれたり、県外に住むご家族が、居室に泊まって帰られることもある。入居前からファミリーサポートセンターを利用されている利用者がおられ、調査訪問時には、ご本人が依頼した買い物をお届けにいられていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			利用者同士が日々の生活の中で関係を持つことが出来るように配慮し、必要な時には職員が間に入り、関わり支える事が出来るように支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			退所されてもはな祭り等の行事の案内を送ったり、関係が途切れないように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			日頃の生活の中での会話や表情から御本人の思いを汲み取るよう職員は注意・配慮し支援につなげている。	
			(外部評価)	
		入居時に、ご本人ご家族から、これまでの生活の様子や暮らしの希望を聞き取っておられる。	意思疎通の難しい利用者もおられ、今後さらに、職員の利用者へのかかわり方等を工夫して、利用者個々の思いや意向を探りながら、ご本人主体の取り組みにつなげていかれてほしい。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			ご本人の生活歴や馴染みの暮らし方を職員は把握した上で支援に反映させている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			生活リズムと活動を個人記録に残し、職員間で話し合い現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>ミーティング時には職員間で話し合い、介護計画原案を作成しそれを基に御本人、御家族の意見・要望も取り入れ現状に即した介護計画を作成している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>介護計画は、ご本人、ご家族の希望を反映して利用者個々の担当職員が立て、ケアマネジャーや管理者が確認をされている。毎月ミーティング時にモニタリングや評価を行い、「介護支援経過」に記入されている。介護計画は3ヶ月ごと、また状態変化時に見直しを行っておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>毎日個人観察記録を記入し、一人一人のケアプランをチェックし、職員間で情報を共有しながら実践している。改善点があれば介護計画の見直しにも活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>必要な時には御家族の方が宿泊することが出来たり、病院受信・散髪等状況に応じてサービスを受けることが出来る体制が整っている</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>訪問マッサージや出張美容を利用することができ、利用されている利用者がいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>受診は御家族の希望を聞き許可を頂いた上で病院受診をしている。日常は母体病院の主治医が週に一回往診に来て頂いており、体調管理には注意している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>母体病院の医師が主治医で、週1回往診に来るようになってきている。歯科や眼科、皮膚科も必要時に往診が受けられるようになってきている。調査訪問時、買い物に出かけた際に、ケガされた利用者がみられたが、母体病院で検査や処置を受け、その後、主治医が利用者のその後の様子を診に来られていた。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>各ユニットには看護職員がおり、介護職員と共に協力し日々の業務を行っている。また母体病院の看護師とも連携を取っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>各ユニットには看護職員がおり、介護職員と共に協力し日々の業務を行っている。また母体病院の看護師とも連携を取っている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には御本人が安心して治療を受けることが出来るよう医師や御家族と相談している。また職員は様子を見に行ったり、洗濯物の交換を行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入院時には御本人が安心して治療を受けることが出来るよう医師や御家族と相談している。また職員は様子を見に行ったり、洗濯物の交換を行っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>終末ケアの場合には、医師・御家族と十分に話し合い協力し合って取り組むようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者の状態変化等があれば、主治医がご家族に説明するようになってきている。利用者やご家族は、「最期まで事業所で過ごしたい」と希望している方もあり、事業所では希望に沿って支援していきたいと考えておられる。これまでに、ご家族が居室に泊まり、職員とともに看取られたような事例がある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は利用者の急変や事故発生時に素早く的確に対応出来るようにしており、緊急時の連絡手順やマニュアルを作成している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っている。地域住民や消防署と合同で火災訓練や防災訓練を行ったり、消防による講演を行って頂いたり協力体制を築いている。	
			(外部評価) 4階からの出火を想定して避難訓練を行った際には、利用者にも協力を得て、非常階段からシートを使用して降ろす訓練をされた。職員は、階段の踊り場を回ることが難しく感じられたようだ。町内の防災訓練は、法人の駐車場で行われ、「地震体験車」「煙ハウス」等、地域の方達とともに体験された。又、通報訓練を突発的に行い、いざの時に備えておられたり、災害時のユニットごとの役割も決めて訓練されている。運営推進会議時には「災害時の携行品について」等、話し合われている。	
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々の人格を尊重し、日頃よりプライバシーや自尊心を傷つけないように配慮し、声のトーンや態度に注意して対応している。	
			(外部評価) 法人代表者は、日頃から職員に「利用者は、大先輩だから、馴れ馴れしくし過ぎないように」と話されている。トイレ介助時、利用者が排泄中はタオルを掛け、プライバシーや羞恥心に配慮し、対応されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃の生活の中で利用者の表情や態度から思いや希望を汲み取り、自己決定出来るように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人一人の生活リズムを職員は把握し、利用者の ペースで生活を送ることが出来るよう支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 希望があれば毛染めやカットをして頂き、外出や行事の時に は普段着ではない服装をして頂いている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立には季節の物を取り入れた食事を提供したり、食事の 準備等出来る範囲内でお手伝いをして頂く等利用者と一緒に 行うようにしている。	
			(外部評価) 職員は、利用者の希望を聞きながら献立を立て、食事を 作っておられ、利用者と一緒に同じ食事を食べておられる。 利用者が食べやすい大きさに切っており、食後、職員は、「お茶も飲んでおいてね」と、利用者におすすめ しておられた。利用者は、豆の筋とりをしたり、食器を拭いたり されている。利用者の誕生日には、ご家族もお呼びして、お 寿司等、ご本人のお好きなメニューとケーキでお祝いされて いる。利用者の希望でうどんや回転寿司を食べに出かけるこ ともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた食事の量や形態にしたり、水分にはトロミを 使用したりと配慮している。毎日食事量や水分摂取量も チェック表に記入している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後には口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保つようにし ている。経管栄養の利用者には口腔ケア専用のスポンジを 使用し個々に合わせて対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握し、出来る限りトイレ利用が出来るように日々職員は対応しており、個々に合わせた排泄支援に努めている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンに応じて、トイレ誘導し、トイレで排泄できるよう取り組まれている。食後、トイレに誘導される際には、職員は利用者のそばで小さな声で声かけされていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ヨーグルトを手作りし提供したり、水分をしっかりと摂取して頂いたり個々に応じた予防対策を行っている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 夏場は冬場より入浴回数を多くしたり、本人の希望を聞きながら入浴を楽しんで頂けるよう配慮している。入浴が出来ない方には、清拭・足浴・手浴を行い対応している。	
			(外部評価) 毎日入浴の準備をして、利用者個々に、週3回は入浴できるように支援されている。お風呂がお好きな方は、毎日入れるよう支援されている。中には、入浴剤を入れることを好まれる方もいる。ご家族の用意して下さったご本人がお気に入りのシャンプーを使っている方もいる。同姓介助を希望する利用者には、希望に沿うように配慮されている。足浴は、足裏の刺激と保温のために、足桶にビー玉を入れて行ってられる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の希望やその日の体調に応じて休息が取れるように支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人の薬ファイルを作成しており、職員は薬の目的や副作用等を把握するようにしており、新しい薬が処方された時には申し送りを行い用量・用法を理解するよう努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の生活歴も参考にし、日々の楽しみや喜びのある生活を出来るように支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出はなかなか出来ない状況ではあるが、少人数で外出に行ったり、御家族に協力して頂き自宅に帰ったりしている。	
			(外部評価) 日常的に法人の敷地内を散歩されたり、近くの量販店に買い物に出かけたりされている。事業所の畑の野菜の成長をみながら散歩されたり、利用者数名で、道の駅にドライブに出かけたり、「菊花展」を見に出かけておられる。松山劇場へ芝居を楽しみに行かれ、後日、劇場から記念写真を送っていただいたことを、利用者と職員は喜んでおられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本おこずかいは職員が管理している。必要な物やパン屋、中山物産店が来た時には一緒に買い物に行くよう支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族から電話が掛かってきた時には取りつないだり、本人自ら電話をされる時には職員が間に入りスムーズにやり取り出来るよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには四季折々の造花や利用者の習字の作品を飾ったり、テーブルには絶えず生花を飾っている。また季節に応じた飾り付けも行っている。夏は冷房、冬は床暖房を行い快適な生活を送ることが出来るようにしている。	
			(外部評価) 日当たりが良い南向きの居間では、ソファでテレビを見たり、新聞を読んでいる利用者の様子がうかがえた。又、階段の手すりを使って上がり降りする利用者や居間で足の運動のため自転車漕ぎを行っている利用者もおられる。居間には、利用者の習字の作品や行事時の写真を飾っておられた。利用者が口ずさんでいた「うめぼしの歌」をきっかけに、歌詞とともに、職員が紙を切って作った梅の木と、梅干しを貼っておられた。ベランダにはポインセチアを飾っておられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファやテーブル、椅子を置いてあり、思い思いに過ごすことが出来るようにしている。また独りで過ごしたい時には居室にて過ごされている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の慣れ親しんだ家具等居室に置いてあり、入居後にもベッドや家族との写真、思い出の物等も持って来て頂き、本人が居心地よく過ごすことが出来るようにしている。	
			(外部評価) ベッドの枕元に、ティッシュペーパー等の日用品を置いて、手が届きやすいようにしている利用者や、お孫さんが持って来てくれたぬいぐるみを大事にされている方もいる。窓際に観葉植物を置いて育てておられたり、帽子がお好きな利用者は壁に数種類の帽子をかけておられた。「ふれあいクラブ」の小学生から貰ったメッセージ入の似顔絵や首飾りを大切に飾っている方もいる。趣味のハーモニカや電子ピアノと歌の本があり、調査訪問時には、ピアノを弾いて聞かせてくださった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) リビングや廊下等には危険になる物を置かないようにしたり、必要な利用者には手すりを使用して頂く等利用者が安心・安全に生活できるように工夫している。	